

—平成21年度—

「学校評価アンケート」の集計結果と分析及び対策

四條畷学園中学校

□保護者による「学校評価アンケート」の結果と分析□

- ・保護者429名（1年165名、2年149名、3年115名） 回収率80.4%
- ・保護者アンケートは20の質問項目に回答。（高評価5～低評価1まで）

[1] 高い評価4.0以上の項目は次の7項目であった。

- | | |
|-------------------|----------------|
| 設問 1：本校に入学させて良かった | 設問 5：行事が充実している |
| 設問 6：校則や決まりは妥当 | 設問 10：友人関係が良い |
| 設問 15：施設・設備が良い | 設問 16：校内の美化が良い |
| 設問 20：学校の環境が良い | |

《分析と対策》

全体的には昨年とほぼ同様の評価である。学校行事やクラブ活動・生徒指導、設備環境には満足していただいているが、教育内容の高評価がないのは寂しい。授業充実により一層、力を注ぎたい。

[2] 一番低い評価3.5の項目は次の2項目であった。

- | | |
|----------------|-----------------|
| 質問 3：授業が分かりやすい | 質問 4：生徒は授業に積極的か |
|----------------|-----------------|

《分析と対策》

「分かりやすい授業の展開」は重点目標の1つであり創意工夫をして取り組んでいるが、家庭での会話の中では不十分なのであろう。子供たちの授業への取り組みにも辛い評価をしている。教える側と教わる側のより一層の真摯な姿勢が必要である。

[3] 質問20項目の平均は3.7の評価である。

また、1～3年共に平均しており、学年による差異はほとんどない。

□生徒による「学校評価アンケート」の結果と分析□

- ・生徒503名（1年177名、2年170名、3年156名） 回収率94.2%
- ・質問項目20のうち、保護者と同一項目16、相異なる項目4。

[1] 高い評価4.0以上の項目は次の5項目であった。

- | | |
|------------------|----------------|
| 設問 1：本校に入学して良かった | 設問 5：行事が充実している |
| 設問 10：友人関係が良い | 設問 14：クラブは楽しい |
| 設問 15：施設・設備が良い | |

《分析と対策》

本校が目指している「知識の習得」のみに留まらず、「人間力の向上」が推進できている。より達成度を上げて行きたい。

[2] 低評価3.3以下の項目は次の4項目であった。

設問 6：校則や決まりは妥当

設問 8：校則や決まりを守っている

設問 12：「いじめ」に対応が適切

設問 18：ノーチャイムは自主性に役立つ

《分析と対策》

学校生活は共同生活であり校則や決まりは必要であるが、子供たちにとって現行の校則・決まりが十分に理解されていない。子供たちにその必要性を理解させると共に、生徒会を中心として校則の確認・見直しをしたい。そして、それを遵守するよう啓発する。また、「いじめ」の対応はより積極的に慎重に進めたい。ノーチャイムは、子供たちとの理解に隔たりを感じるがより強化したい。

[3] 質問20項目の平均は3.6の評価である。

しかしながら、1,3年に差異はないが、2年の評価が3.3と大変低い。

《分析と対応》

初心に燃える1年生と進学を間近に有終の美を飾ろうとする3年生。やはりその間にあって2年生が常に気が緩みがちの傾向がある。

初心時のモチベーションを如何に持続させるか大きな課題である。

[4] 家庭での学習時間を尋ねたが、4時間以上41名、3～4時間69名、2～3時間142名、1～2時間130名、残りが1時間以内であった。

《分析と対策》

塾通いや家庭教師の時間も含まれている。家庭学習の時間は短時間でも良いから習慣化したい。唯、高学年になるほど勉強時間が増えているのは好ましいことである。回答に、1時間以内が全体の20%、無回答が3.8%のあったことは気がかりである。

□**教員による「学校評価アンケート」の結果と分析**□////////////////////////////////////

・中学校教員28名

・質問項目は36、その内訳は学校運営11、教育内容12、生徒指導10、教員研修3である。

[1] 学校運営に関する平均評価は4.1と高いが、そのうち次の2項目の評価が低い。

設問 6：会議が効率的か

設問 9：学校HPの活用が活発か

《分析と対策》

建学の理念や教育方針、経営財務及び教育課程などの評価は高いが、職員会議を中心とする会議が有効かつ効率的に機能していない。運営委員会で議題を整理し、難しい議題に関しては事前に資料を提供するなどの対策を講じたい。

また、HPの活用についても係を中心により活用を活発にしたい。

[2] 教育内容に関する平均評価は4.4と高い。すべての項目で高い評価であり、中でも次の5項目の評価は大変高い。

設問12：授業の創意工夫

設問14：授業の雰囲気

設問17：好ましい人間関係

設問20：心身の健康安全

設問21：主体的な生徒会活動

《分析と対策》

これらの教育内容の項目は教える教員側と学ぶ生徒及びその保護者との間に評価の大きな差異がある。

例えば、設問12：授業の創意工夫に関して、教員側は努力しているとの高評価であるが、生徒・保護者側はより一層の工夫を求めている。

生徒及び教員が自らを振り返り、両者の歩み寄りが必要であろう。

[3] 生徒指導に関する平均評価は4.4と高い。特に次の2項目が高評価である。

設問24：時間を守る

設問25：挨拶と礼儀

《分析と対策》

この2項目も教員と生徒・保護者の間に隔たりがある。特に、時間厳守の項目に関しては、教員自ら範を示し、子供たちにも啓発したい。

[4] 教員研修・資質向上に関する平均評価は3.7と低い。

この項目は少ないが、教員間の意見交換や校内外の研修及びその報告などの教員間の相互理解や協力、また個々の教員の資質向上であり今後の大きな課題である。

各職員会議や学内研修の際に、発表・報告の場を設けるようにしたい。また、コンピュータの掲示版に報告記載を義務づけたい。



《総合的な感想》

本校に「入学して良かった」の満足度は生徒が72.6%、「入学させて良かった」の満足度は保護者が83%である。この項目の満足度がより高くなるように頑張りたい。

また、学校生活すべての面で、「教員が模範を示す」ことが一番大切である。「休む」「遅れる」

「挨拶が出来ない」「時間が守れない」など、生徒に注意を促す前に、我々個々の教員の自らの日々の姿勢を省みる必要がある。

平成21年度 教員による「自己評価」の結果報告

H 2 2 年 4 月

四條畷学園中学校

《対象》中学校教員 28 名

《評価方法》5：その通りである（達成度 80～100%）

4：どちらかといえばその通りである（達成度 60～79%）

3：どちらともいえない（達成度 40～59%）

2：どちらかといえば違う（達成度 20～39%）

1：全く違う（達成度 0～19%）

NO	評価項目	評価
1	建学の精神「報恩感謝、尊敬される人間の育成」をよく理解し、それに基づいて教育を行っている。	4. 3
2	教育方針「個性の尊重・実行から学べ・明朗と自主」をよく理解し、それに基づいて教育を行っている。	4. 4
3	教育課程の編成は学習指導要領に沿っている。	4. 1
4	年間を通じた教育計画を教科別に立て、シラバスに沿い指導している	4. 4
5	教育問題について教員間でよく話し合っ教育活動が行われている。	4. 0
6	職員会議・学年会議をはじめとする各種会議・委員会が、情報交換と検討課題の場として有効かつ効率的に機能している。	3. 4
7	私学経営の財務状況に関心を持ち、学園の発展を目指して教育活動の充実を図っている。	4. 1
8	経費の節減や教育活動と財務との均衡のあり方を考えて学校経営を行っている。	4. 0
9	学校HPの公開掲示板で可能な範囲の教育活動や情報を提供している	3. 7
10	危機管理マニュアルを作成し非常時の役割を分担している。	4. 0
11	緊急時に備え、警察・消防との連携、訓練など学校の安全対策を十分とっている。	4. 1
12	授業に創意工夫を行い、分かりやすい授業を行っている。	4. 6
13	生徒の学習意欲を高め、学力を向上させる授業を実践している。	4. 4
14	授業を受ける基本的な態度・マナーを身につけさせ、落ち着いた雰囲気指導している。	4. 6
15	生徒の情報活用能力の育成を図っている。	4. 0
16	情報発信に伴う責任など、情報モラルの教育に取り組んでいる。	4. 4
17	周囲の人を尊重し、よりよい人間関係を築いていく態度を養う教育を実践している。	4. 5
18	人権にかかわる様々な問題に関心を持ち、人権意識を高める教育を実践している。	4. 4
19	自然を大切にす心と環境を保全しようとする態度を育てている。	4. 4
20	心身共に健康で安全な生活を送るための行動や態度を養っている。	4. 5
21	文化祭や体育会等の生徒会活動を通じて、生徒が主体的に活動できるよ	

	う学校全体で支援している。	4. 5
2 2	読者タイムの実施・図書館の利用促進など読書指導に取り組んでいる。	4. 3
2 3	他国の歴史・文化の理解、異文化交流など国際理解に対する教育活動を取り入れている。	4. 4
2 4	生活の基本である時間を守るという指導を行っている。	4. 6
2 5	挨拶をはじめとして礼儀を重んじる生活態度を養う指導を行っている。	4. 6
2 6	服装・頭髪・持ち物等の生活面の規則・ルールを理解させ守らせている	4. 5
2 7	生徒に清掃、校内美化に取り組むよう指導している。	4. 5
2 8	家庭と学校との協力と連携の下に生徒指導を行っている。	4. 5
2 9	学習の遅れている生徒への支援を生徒の実態に合わせて行っている。	4. 0
3 0	生徒が抱えている問題に対して、一人ひとりを大切にしたきめ細かい相談・指導を行っている。	4. 3
3 1	生徒の将来を見据え、進路情報の提供や進路ガイダンスを実施している	4. 3
3 2	個々の生徒に応じた希望・目標を実現させるよう、進路相談や進路支援を行っている。	4. 3
3 3	学園高校や短大・大学への内部進学を希望する生徒には積極的に支援している。	4. 3
3 4	教員間で授業内容を評価したり、生徒指導のあり方等、指導方法について意見交換を行う機会がある。	3. 8
3 5	教育問題や生徒理解、人権教育等、効果的な校内研修計画を立案し、計画的に教職員に研修を実施している。	3. 7
3 6	研修・研究に参加した成果を、他の教員に伝えて情報を共有する体制が整理されている。	3. 5

《分析とその対策》

① 評価項目 3 6 を分類すると、

- 学校運営に関する 1 1 項目（1～1 1）は平均評価 4. 1 と高いが、会議が効率的か（質問 6）及び学校 HP の活用（質問 9）の 2 項目の評価が 3 台で低く、今後の大きな課題である。
- 教育内容に関する 1 2 項目（1 2～2 3）は平均評価 4. 4 と高い。
中でも、授業の創意工夫（質問 1 2）、授業の雰囲気（質問 1 4）、好ましい人間関係（質問 1 7）、心身の健康安全（質問 2 0）、生徒会活動（質問 2 1）は評価が高い。
- 生徒指導に関する 1 0 項目（2 4～3 3）は平均評価 4. 4 と高い。
特に、時間を守る（質問 2 4）、挨拶と礼儀（質問 2 5）は評価が高い。
- 教員研修・資質向上に関する 3 項目（3 4～3 6）は平均評価が 3. 7 と低い。
これらの 3 項目はいずれも評価 3 台で改善が急務である。

② いくつかの項目で、「学校評価」に対する子供たちと教員の評価に大きな違いがあることに留意し、検討・改善を考えたい。